



竈神の飾り

供えていました。歳徳神は坪庭にまつりますが、鏡餅は「茶室」に伊邪那岐尊(いざなぎのみこと)・伊邪那美尊(いざなみのみこと)が描かれた「歳徳大御神」の掛軸を掛け、その前に供えました。十二月の神は1月から12月の月ごとの神々のことで、「大座敷」の床の間に12個の鏡餅を供えました。

旧長谷川治郎兵衛家では、今年も荒神や歳徳神の飾り付けを行ないます。繁栄を極めた豪商のお正月を楽しんでいただければ幸いです。

謹んで新春の御挨拶を申し上げます

本年も新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底をした上で、新たな事業を展開する予定です。どうぞ、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願いいたしますとともに皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

さて、皆様のお家では、どのようにお正月をお迎えていますか？鏡餅を座敷などに供えたり、注連縄(しめなわ)を玄関に飾ったりとお正月ならではの楽しい催しがいろいろありますね。旧長谷川治郎兵衛家でも年末になるとお正月を迎える準備が家の中や外で行なわれています。

表口を入ったところの土間に大竈(おおかまど)が据えられています。大竈には1年を通して松の枝が供えられており、その上の壁には荒神(火と竈の神)がまつられています。年末には、この松に注連縄を飾って「御竈神」と記した木札を吊るし、黄と白の餅花を付けた柳の枝を添えます。黄白の餅花は、大判小判の「黄金(こがね)」にちなんだものと考えられます。

「大座敷」の外の坪庭には、その年の福德を司る歳徳神(としとくしん)をまつります。

1本の大きな松の木に数本の松の枝を巻き付け、「御歳徳神」と記した木札と「つぼ」と呼ばれる藁で作った容器を吊るします。

当主一家が東京に住まいを移すまで、歳徳神・十二月の神・荒神・神棚・仏壇・稲荷神・蔵神などに鏡餅を



歳徳神の飾り

今回の展示はここがみどころ！

◆長谷川家の江戸店経営

旧長谷川治郎兵衛家 令和2年12月23日(水)～令和3年3月14日(日)



印半纏

長谷川家は数多い江戸店持ち伊勢商人の中でも、いち早く江戸へ進出し成功を収めた松阪屈指の豪商です。延宝3年(1675)、3代次郎兵衛政幸を創業の祖とし、後には江戸の大伝馬町一丁目に5軒の出店を構える木綿商となります。歌川広重筆の「東都大伝馬街繁栄之図」には、長谷川家の江戸店が描かれており、その繁栄ぶりがうかがえます。長谷川家の経営方法は、当主は松阪に居住しながら店々の人事権を掌り、江戸店経営は一切支配人に任せるというものでした。本展では、長谷川家に残る近世から近代にかけての商業道具や商業資料を通して、出店の経営や商業活動をご紹介します。

◆番付の世界

旧小津清左衛門家

令和3年 1月14日(木)～ 4月4日(日)

現在、世間には人々の関心を惹くあらゆるランキングが紹介されています。江戸時代においても「番付」として庶民の間で親しまれていました。「番付」は本来、力士の順位表を記した「相撲番付」や芝居(歌舞伎・狂言・人形浄瑠璃など)の興行を宣伝するために作成された「芝居番付」を指します。江戸時代後期になるとこうした「番付」の体裁に倣って歌人、俳人、職人、棋士、武将、剣豪、大名石高、山川、銘酒、芸事、遊郭など、多岐に渡る対象を順位付けした「見立番付」が生まれました。なかでも、お金持ちに順位を付けた「長者番付」は今も昔も羨望を集め世間から注目されています。本展では、様々な番付を通して当時の世相をご紹介します。



江戸大商人持丸長者番付

◆御城番屋敷と苗秀社

原田二郎旧宅 令和2年12月9日(水)～令和3年4月18日(日)



御城番屋敷

文久3年(1863)建造の御城番屋敷(国重要文化財)は、松坂城を警護する「松坂御城番」という役職の紀州藩士20人とその家族が住んだ武家屋敷で、現存する江戸時代の長屋形式の建物の中では最大規模を誇っています。明治になると元松坂御城番の人々は、御城番屋敷を含めた資産を永続的に運用するため、士族授産で受けた財産を出資して「苗秀社」を創設しました。この屋敷には、今もなおご子孫の方々が住まれ、合同会社苗秀社で維持管理を行っています。本展では、苗秀社に残る資料を中心として、松坂御城番の来歴と苗秀社の歩みをご紹介します。



◎ 令和2年度「松阪学入門講座」を開催

本年度の入門講座は、「松阪市史その後」をサブテーマとし当初、昨年6月から全9講座を予定しましたが、コロナ禍のために前3回を見送り定員30名として、ようやく9月から6講座で開催しています。

- 1月17日(日)「松坂城下の商人文化」松阪歴史文化舎理事長 門 暉代司
- 2月21日(日)「東海大一揆の歴史的意義」三重短期大学名誉教授 茂木陽一

◎ 城下町「松坂」発見講座を開催

本年度新企画として、9月から12月まで松坂城跡並びに中心市街地を散策する現地学習会(全4回)を計画し、30名の方々のご参加の下、実施しています。なお雨で延期になった10月の講座(散策地:旧城下町北エリア(本町～日野町界隈))は1月9日(土)に行います。



特別企画展示のお知らせ

◆「手作り甲冑展」

- ・期間: 令和2年12月15日(火)～令和3年2月14日(日)
- ・場所: 原田二郎旧宅
- ・協力: 松阪手づくり甲冑愛好会
武士の町並みが残る旧同心町で手作り甲冑を堪能していただけたらと思います。



◆「ちょっと昔のおひなさま」

- ・期間: 令和3年2月3日(水)～3月3日(水)
- ・場所: 旧長谷川治郎兵衛家・旧小津清左衛門家
- ・協力: 飯南局舎「和み」
長谷川家や小津家のたたずまいをいっそう華やかにものにする雛人形をゆったりとお楽しみください。



●長谷川家に残る「火用心」の版木の来歴は？

火事の多くは人為的なミスで発生するため、どのような対策を講じるかは江戸時代においても大きな課題でした。長谷川治郎兵衛家では、毎年「火用心」のお札を刷り、それを貼り替えて、火難予防をしてきました。

長谷川家には、お札を刷るための版木が残っています。しかし、今日まで版木の来歴については、文政13年（1830）に作製されたこと以外は不詳でしたが、それがわかる新資料が発見されました。

本資料「出品々名」は、東京の在郷軍人会麹町区分会第7班の班長をしていた長谷川久四郎（本家11代当主定矩の次男）が、出品した品々を紹介したものです。いつどこに出品したかは不明ですが、「火用心」版木の字は大和国の長谷寺能満院大和上人が揮毫したもので、江戸時代後期の8代元貞から現在まで、台所などに貼っていました。

今日まで長谷川家住宅が一度も火災に遭わずに存続したのは長谷寺能満院の御利益と、そしてなによりも、毎年お札を張り替えて火難予防意識を高く維持し続けたこの「しきたり」によるところが大きいのかもしれません。

現在、旧長谷川治郎兵衛家で開催の企画展「長谷川家と江戸店経営」（令和2年12月23日～令和3年3月14日）では、「火用心」の版木とともに消火具「水鉄砲」・火事装束なども展示しています。また、不定期ですが、版木のレプリカを使って、来館の方々に木版刷りを体験していただくワークショップも開催しています。刷ったお札はお持ち帰りできますので、是非ご来館ください。



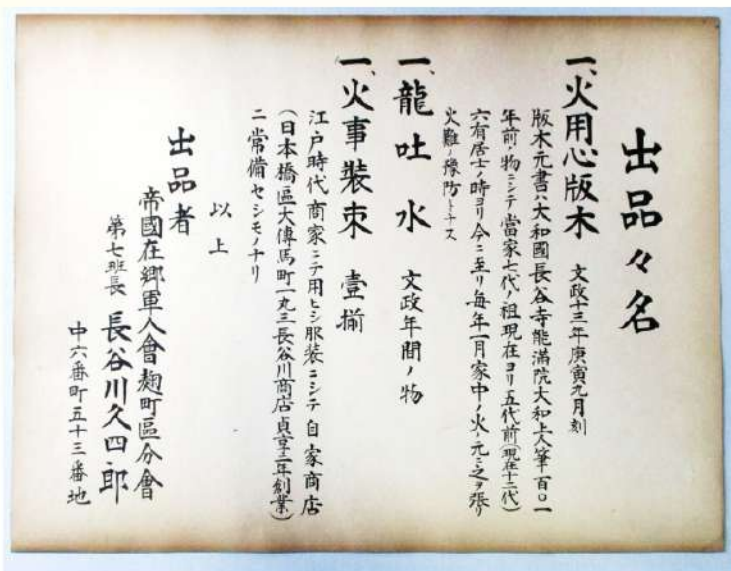
【火用心版木】



【火用心版木裏書】

文政十三年庚寅年

九月 拵之



【出品々名】

旧長谷川家、旧小津家、原田旧宅3施設のご案内

【開館時間】9:00~17:00

(16:30までにご入館ください)

休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末

【連絡先】

旧長谷川治郎兵衛家

Phone: 0598-21-8600

旧小津清左衛門家

Phone: 0598-21-4331

原田二郎旧宅

Phone: 0598-23-1656



発行 NPO法人松阪歴史文化舎

〒515-0082 三重県松阪市魚町1653

Phone: 0598-21-8600

E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com

